

平成 27 年度 実験・実習技術研究会 in 西京に参加して

○後藤 伸太郎、磯谷 俊史、福森 勉

工学系技術支援室 装置開発技術系

はじめに

平成 28 年 3 月 3 日、4 日の日程で山口大学吉田キャンパスにおいて開催された「平成 27 年度実験・実習技術研究会 in 西京」に聴講参加した。会場案内看板を図 1 に示す。本研究会は 15 の技術領域・分野から構成されており、全国から集まる技術職員同士が日常業務における創意工夫を失敗談も含めて共有し、技術の研鑽を図るものである。

1. 研究会のスケジュール

本研究会のスケジュールを表 1 に示す。



図 1. 会場案内看板

表 1. 研究会のスケジュール

平成 28 年 3 月	
3 日 9:30	大学の技術職員組織を考える シンポジウム in 山口大学
13:00	開会式・記念講演
14:25	次期開催案内・諸連絡
15:00	ポスター発表
18:30	情報交換会
4 日 9:00	口頭発表 (セッション I)
10:35	口頭発表 (セッション II)
13:00	口頭発表 (セッション III)
14:35	口頭発表 (セッション IV)

2. 聴講内容と得られた成果

○大学の技術職員組織を考えるシンポジウム in 山口大学

開会式に先がけて、9 時 30 分より大学の技術職員組織を考えるシンポジウムが開催された。朝早くからであったが、200 名以上の技術職員の参加があり関心の高さがうかがえた。コーディネータとして北海道大学の岡征子氏が進行を務め、コメンテータとして名古屋工業大学の玉岡悟司氏が、パネリストとして岩手大学の小綿利憲氏、静岡大学の水野保則氏、鳥取大学の丹松美由紀氏、広島大学の村上義博氏が登壇された。各大学における技術部組織化の背景、現状、抱える問題の紹介から始まり、今後のあり方について討論された。

どの大学も組織化のメリットとして、大学側に技術職員の職群の明確化と組織を一部局として認めてもらえるようになった点を挙げ、さらに一部の大学では上位等級や

専門員数の増加が認められたことによる待遇改善の成果もあったとの報告があった。一方デメリットとして、教員・学生と技術職員の距離感が遠くなって仕事がやり辛くなったなどの意見が挙げられていた。パネリストの大学ではすべて管理職名と合わせて管理職手当が支給されており、名古屋大学より進んでいることを感じた。

○開会式・記念講演「ピンチはチャンス！」

旭酒造株式会社代表取締役桜井博志氏が講演された。旭酒造は日本酒「獺祭」で純米大吟醸の販売量日本一になった山口県山奥の小さな酒蔵である。交通の便や酒米の調達の面など様々な逆境の中、その逆境をチャンスに変えて成功を取めた体験談を通して、技術者魂を奮い立たされる講演であった。

○ポスター発表

電力機器分野の学生実験指導に関する発表があった。指導員や時間が足りないうえ資格取得や安全教育などのカリキュラム内容を減らせない状況の中、質を向上させつつ無駄な負担を減らすために行ってきた様々な工夫が分かりやすく紹介されていた。解説用のスライドや動画を作成してインターネット上で公開するなど学生側の利便性に配慮した工夫が中心であり、実習を企画する上で大変参考になる手法を知ることができた。

○口頭発表

切削加工ドリムコンテストにおいてアカデミック部門銀賞を受賞した作品の加工方法を紹介する発表があった。このコンテストは DMG 森精機株式会社が主催しているもので、技術職員の能力向上を図るために挑戦しているとのことである。作品には稼働部品が含まれているが、別々に製作したものを組み合わせたのではなく四角柱からの削り出しであった。加工方法の紹介を聴き加工の難易度と技術レベルの高いことを感じた。このようなコンテストがあることを初めて知り、今後自分も技術を磨いて挑戦したいと感じた。

また、他大学で行われている実習の題材についての調査も行った。その際、実習後に活用できる実用性に着目して聴講を行った。複数の大学で採用されていたものがミニチュアバイスの製作である。加工難易度は特別に高いわけではないが、稼働部品の製作が含まれ、完成後も活用できる題材であると感じた。さらに、「ワインオープナーの製作」実習の紹介があった。こちらは製作期間が長く必要であり工程も複雑なため現状の名古屋大学でこのような実習を行うことは難しい。しかし題材としては、職員はもとより学生の興味を強く引き付けつつ多くの加工方法を学ぶことができるうえ、完成後の実用性も兼ね備えている題材であるため非常に魅力的であると感じた。今後より良い実習題材を考えるための基になる貴重な情報収集の機会となった。

おわりに

本研究会への聴講参加をさせて頂いた中で、記念講演では逆境をチャンスに変えて美味しいお酒を造れるまでの苦勞を知り、発表では各大学における実験・実習技術の向上への取り組みを知ることができた。我々の日常業務への糧となる内容が多々あり、とても有意義な研究会となった。

開催校の山口大学のみなさまには準備や受け入れでお世話になり心より感謝いたします。発表や交流を通じて意見交換させて頂いた全国の研究機関のみなさまにも感謝申し上げます。